

## 2. 調査結果の概要

### (1) 調査地域

平成26年度の調査地域は、1道11県で、110例であった。今年度新たに調査された県は、秋田県であり、過年度を含め、1道24県で実施したことになる。

日本は南北に長いこともあり、作物の種類も違い、同じ作物でも生産時期や体系が極めて多様である。

その結果、農作業事故発生の形も当然異なり、各都道府県毎の調査はもとより、地域毎の調査に基づき、事故原因を明らかにしなければならない。

4年間での未調査の都府県はもちろんのこと、調査を行った道県でも引き続き、様々な農作業の事故調査が必要である。

とりあえず、今後未調査の都府県について引き続き事故調査を実施することが求められる。

以下、未調査の都府県は

- ・東北地方：青森県、宮城県、山形県
- ・関東地方：群馬県、埼玉県、東京都
- ・中部地方：山梨県、静岡県、愛知県  
石川県、福井県
- ・近畿地方：京都府、大阪府、奈良県  
和歌山県
- ・中国地方：鳥取県、岡山県、山口県
- ・四国地方：徳島県、香川県、高知県
- ・九州地方：大分県

の1都2府19県である。

いずれにしても、日本の農作業は「個人経営・家族経営」が中心であり、農作業事故も個人や家族の責任とされ、農作業事故が社会全体の問題となっていない。今回の「農作業事故の対面調査」は、①事故に遭った方を探す、次いで②事故調査の了解をご本人に得る、③調査日程の調整をする、という3段階を経なければならない。ここが他産業の労災調査と根本的に異なる点である。

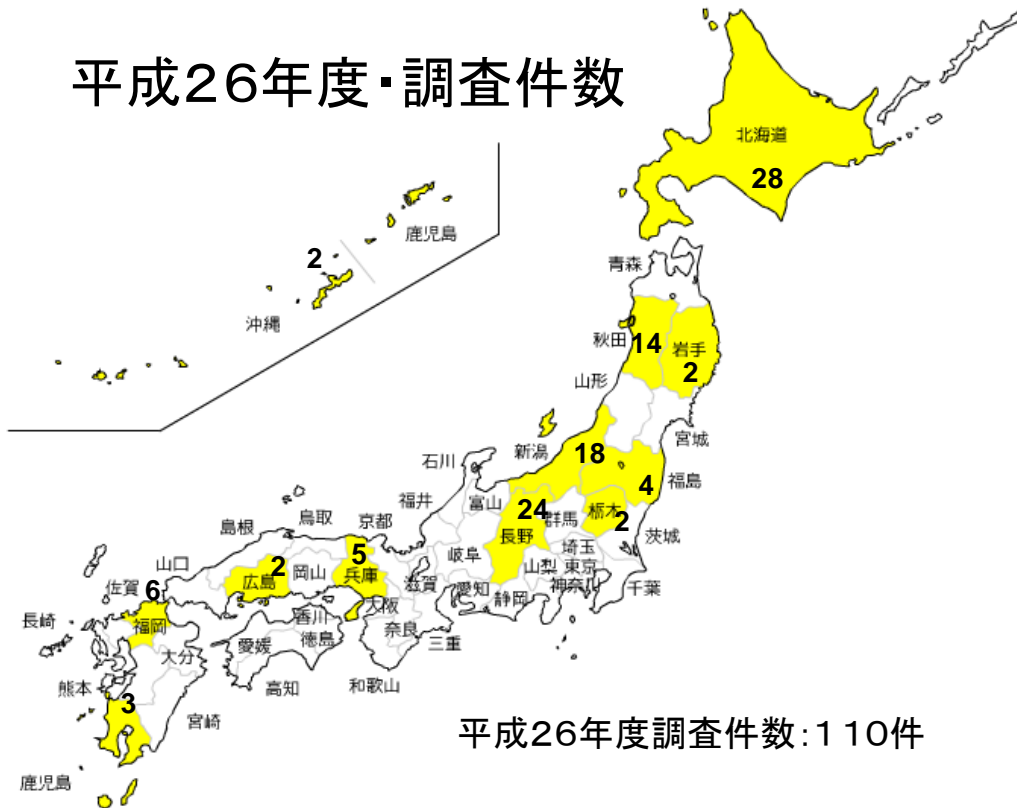
今回の調査は、ご協力をいただいたご本人はもちろんのこと、調査の手配等された農協や県や市町村の関係者の方々の、個別の地道な努力により成り立っている。

### 地区別・調査件数

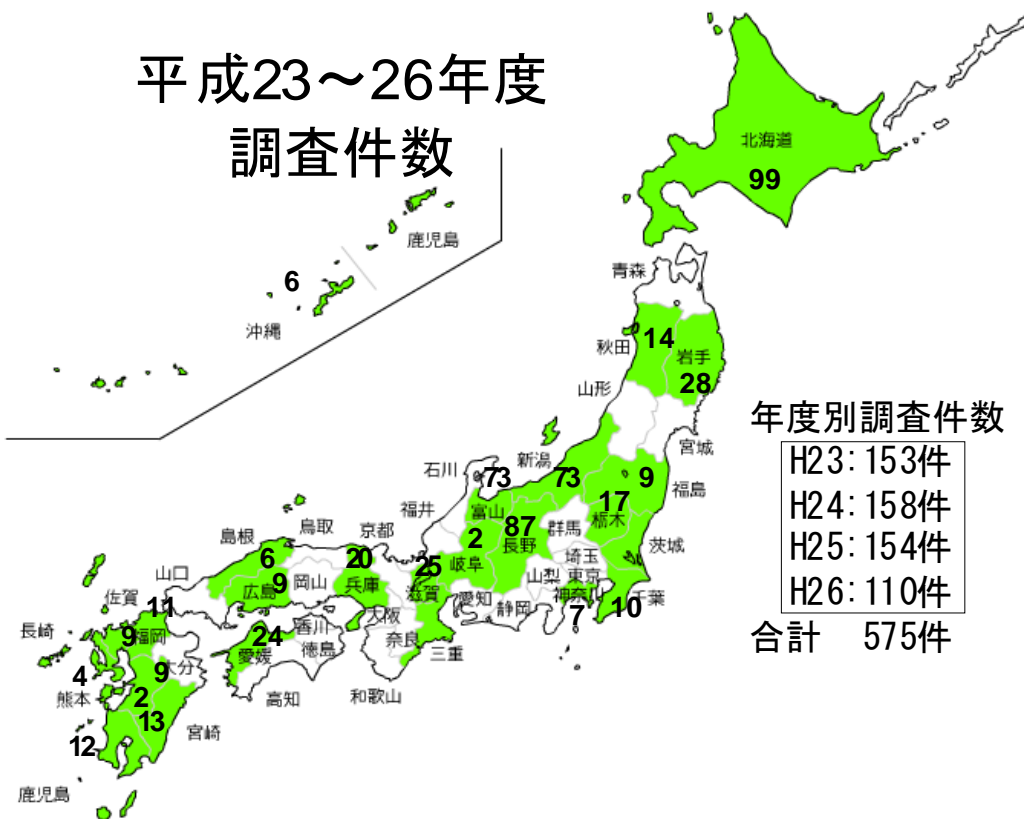
NO	地区名	平23	平24	平25	平26	合計
1	北海道	17	38	16	28	99
2	岩手県	4	11	11	2	28
3	福島県	1	3	1	4	9
4	秋田県				14	14
5	茨城県		5	3		8
6	栃木県	5	4	6	2	17
7	千葉県	1	5	4		10
8	神奈川県			7		7
9	新潟県	19	16	16	18	69
9	新潟 (長岡)		3	1		4
10	富山県	31	17	25		73
11	長野県	23	17	23	24	87
12	岐阜県			2		2
13	三重県		5	4		9
14	滋賀県	15	4	6		25
15	兵庫県	5	5	5	5	20
16	島根県		3	3		6
17	広島県		5	2	2	9
18	愛媛県	21		3		24
19	福岡県	2	1	2	6	11
20	佐賀県	9				9
21	長崎県			4		4
22	熊本県		2			2
23	宮崎県		10	3		13
24	鹿児島			7	3	10
25	沖縄県		4		2	6
合計		153	158	154	110	575

## 調査地域と調査件数

### 平成26年度・調査件数



### 平成23～26年度 調査件数



## (2) 調査対象者の概要

### ①男女別、年代別調査人数

平成26年度の調査人数は、男91人、女19人計110人であり、年代別では60歳代が33人で最も多かった。

また、最高齢は87歳の男性で、圃場の耕耘をトラクターで終了後、公道を運転中、道路から転落、死亡した事例である。

耕耘後、T字路で右折し走行中、後ろから車が来たので急ブレーキをかけたのだが、左右のブレーキが連結されておらず、左のブレーキだけの片ブレーキとなり、転落したものである。

この片ブレーキによる事故は後を絶たない。とくに高齢者がブレーキの連結ロックの意味を十分理解せずに走行し、事例のような事故につながっている。

今後、高齢者が乗用農業機械の運転を控える手立てや、さらには、例えば70歳以上の者については、一定水準以上の安全研修の受講終了者のみに限るなどの制限をすることも検討する必要があると考えられる。

男女別・年齢別件数

	男	女	計
～29	4		4
30～	5		5
35～	6	2	8
40～	4	4	8
45～	5		5
50～	6	1	7
55～	6	2	8
60～	11	2	13
65～	18	2	20
70～	10	5	15
75～	6	1	7
80～	6		6
85～	4		4
合計	91	19	110

### ②死亡事例

死亡事例の調査は、遺族からの聞き取りとなり、聞かれる方も、調査する側も極めて気を遣うことになる。この4年間で死亡者に関する調査は14名の方々であった。とくに平成26年度では6名と多かった。中には結果として「加害者」の立場に立たされた方から、辛い立場をおして調査に協力していただいた方もいらっしゃる。被害者の方のご冥福を祈るとともに、事例では決して加害者の立場の方の不注意のみですまされる問題ではなく、機械の問題、作業過程の問題等多角的に解決すべき問題が山積している。

死亡者の年齢は、被害者となった40歳代の男性を除いて、いずれも60歳以上であった。

原因となった農業機械では、トラクターが最も多く14例中7例と半数を占めている。高齢が故にハンドル操作が的確に行われなかった事例や、判断を誤るような状況下での事故等があった。また、コンバインなどでは、特にバックが死角となっていた。機械が大型化するにつれ、「死角」対策は必須である。

また、内因性が疑われる事例もあり、これからは高齢化がますます増える中で、作業前の十分な体調管理が、必須の条件になってくる。

死亡者の年代		死亡原因	
	人数	原因	件数
40～	1	トラクター	7
50～		コンバイン	2
60～	3	運搬車	2
70～	6	サトウキビハーベスター	1
80～	4	動噴	1
合計	14	内因性	1
			14

## 死亡事例の内訳

NO	年度	性別	年齢	事故状況	発生場所	機種
1	H23	1	74	汎用コンバインでソバを刈っていた。下の水田のソバを刈り取り、上の水田に移動する時、進入路の手前で高さ2.6mの所からコンバインとともに転落し死亡した。	田畑の進入路	コンバイン
2	H23	1	78	運搬車で肥料を30aの田んぼに追肥をした帰り、側溝に転落し、意識不明	田進入路	運搬車
3	H24	2	71	白菜と大根の収穫作業中、畑より小型運搬車を移動させるにあたり、下じき・死亡、本人死亡のため状況がよく分からないが、発見時は完全に運搬車の下に入り込み、運搬車側の体やの軸がのど元を圧迫した状態であった。	農道	運搬車
4	H24	1	86	キャビン付きのトラクターで畑を耕耘し、終わったので休もうとしたのか、エンジンは切られていた。ラジオはついていた	自宅前の畑	内因性
5	H25	1	67	棚田地帯で次の水田に移動する際、鋭角な角を曲がりきれず、一旦バックしようとしたら、そのまま9m下の崖下に転落。死亡した。	棚田道路	トラクター
6	H25	1	74	田んぼの荒耕しに出かけた。その帰り道と思われるが、田んぼより1.2m高い農道から転落した。	農道	トラクター
7	H25	1	64	水田でトラクターに乗って農作業中落雷。右胸、右脇が雷に打たれたように焦げていた。田圃にエンジンがかかったまま用水路に脱輪したトラクターがあり、そばに本人が倒れていた。心肺停止状態。現場は、川の河口近く。田圃が広がり民家が点在している。県内全体に雷注意報が出ていた。住民が田圃の水の状態を確認しに行ったところ、隣の田圃の用水で発見	水田	トラクター
8	H25	1	86	除草剤を入れた電動の噴霧器を担いで、畑の縁を歩いていたが、足を踏み外して、6m下のコンクリートの道路に墜落。たまたま通りかかった人に発見された。	畑の縁	動噴
9	H26	1	87	トラクターで耕耘作業を行った後、市道に出て走行中、道路の左側に転落し、トラクターの下敷きとなり胸を強く打ち死亡した。トラクターは4厘駆動の13馬力、110cmのロータリーが接続されていた。	公道	トラクター
10	H26	1	70	日没30分後、トラクターに装着したブロードキャスターで肥料散布後、公道を走行。後続の84歳男性の運転する乗用車に追突され、左道路脇に押し出され、側溝で転倒。本人投げ出され、全身強く打ち付けられ、死亡。	公道	トラクター
11	H26	1	85	トラクターで畑の耕耘終了後、T字通路に出るため、左旋回で通路に出たが、ハンドル操作が遅れたのか、右側の約3mの法面の下の畑に転落、下敷き。	農道	トラクター
12	H26	1	71	フロントローター付きトラクターでカボチャ畑の畝間の中耕除草中、畝の端で右旋回中、曲がりきれず左法面から、トラクターもろとも約80cm下に転落。下敷き。	圃場	トラクター
13	H26	1	44	サトウキビハーベスターで、刈り取りに入った畑の最初の部分でバックしたとき、補助員が轢かれ、死亡。	圃場	サトウキビハーベスター
14	H26	1	69	自脱型コンバインで自宅の格納庫から70～80m先の水田に自走した。進入路から2.5m行き過ぎてしまったため、バックしたところ、進入路手前の路肩から1.3～1.6m下の段差に転落、被害者は仰向けになったコンバインの下敷きになった。	農道	コンバイン

### ③事件事例分類

事故は、様々な因子が複合して起こる。そのため、事故分類は単純ではない。機械の種類別に分類しても、機械そのものに原因がある場合、操作に問題がある場合、環境にある場合、それぞれ機械・人・環境のミスマッチによる場合等々、分類は幾通りにもなる。因子を分解し、さらに細かく分解していくと、ついには、あれもこれも手を打たなければ事故は防ぐことができない、となる。

ここでは、とりあえず、機種別を中心に分類しておく。必要に応じて、細分類されていくことが前提である。

#### 平成26年度分類

	機 種	件数
1	一般農機	42
2	運搬・移動	5
3	電動器具関係	6
4	その他の機械	6
5	大規模畑作	11
6	用具・手具	14
7	牧畜	15
8	その他・特に無し	11
	合計	110

最も多かったのは、トラクター、次いで草刈機の事故である。

北海道では、とくに大規模畑作の事故が目立つ。とくに、多数の人が同じ機械に乗車したり、補助作業に携わる場合である。その際、お互いの連携や合図が決められず、お互い「わかっているだろう」で関わると、重大事故につながる。

また、牛関係では、肥育牛では、日常余り触られる経験がないために、出荷時に体の洗浄や移動時に暴れたり、思いがけない行動をとることがある。

いずれにしても、多様な事故事例が報告され、多数の教訓が含まれている。

#### 1. 一般農機

	機 種	件数
1	トラクター	13
2	草刈機 (刈払機6, 自走式6)	12
3	コンバイン	7
4	耕耘機	5
5	田植機	3
6	バインダー	1
7	動散	1
	合計	42

#### 2. 運搬・移動

NO	機 種	件数
1	運搬車	1
2	トラック	1
3	軽トラ	2
4	バイク	1
	合計	5

#### 3. 電動器具等

NO	機 種	件数
1	サンダー	2
2	チェーンソー	3
3	扇風機	1
	合計	6

#### 4. その他の機械

NO	機 種	件数
1	重機	3
2	SS	1
3	お茶・摘採機	1
4	花・結束機	1
	合計	6

#### 5. 大規模畑作

NO	機 種	件数
1	ポテトハーベスター	4
2	エンジンハーベスター	3
3	サトウキビハーベスター	1
4	ダイコンハーベスター	1
5	オニオンピッカー	1
6	長袈根切り機	1
	合計	11

#### 6. 用具・手具

NO	機 種	件数
1	脚立・三脚	6
2	はしご	4
3	鎌	2
4	ハンマー	1
5	一輪車	1
	合計	14

#### 7. 牧畜

NO	機 種	件数
1	牛(酪農7, 肥育4)	11
2	マニュアルレッグダー	1
3	牧草関係	3
	合計	15

#### 8. その他・特になし

NO	機 種	件数
1	歩行	5
2	高所転落	3
3	重量物の移動	2
4	その他	1
	合計	11